

山陰新聞 明治 36 年 10 月 13 日 記事

松江工芸品陳列所

蒼鬱を既する工芸品陳列所は二の丸公園に建てられぬ輪奐の美を極め白亜黄漆を以て内を塗り外壁には淡緑色を浴し楼上四面に廻廊を設け玄関上部に応接室を構ふ。一年の月日と約一万五千金の巨額を費やしたるほど其完全なることを推すべし

● 松江市工芸品陳列所
蒼鬱を既する工芸品陳列所は二の丸公園に建てられぬ輪奐の美を極め白亜黄漆を以て内を塗り外壁には淡緑色を浴し楼上四面に廻廊を設け玄関上部に應接室を構ふ。一年の月日と約一万五千金の巨額を費やしたるほど其完全なることを推すべし。樓上南端に青絨を敷きたる三室は殊に全美を尽くし天井に意匠を凝らし玻璃を透し半透の二重とし圓閉し便利に空氣を清浄からしむるの装置よして眩しからん遠山の遙遠たるも碧雲湖の波を明けず明鏡も斯くやと覺はしき佳絶の風光を眺むべく東は市街を瞰下して津田の松原の千古の翠黛を湛えたるに天神大橋二川の白布を晒せざるに似たるを望むべく更に遙く出雲富士の巍然として白雲を倒にしたるを嵩山と旅の秀拔とを見るべく近く天守閣の幾多の歴史を有せしを個はるべし敢て便利の地と云ふへからざるも地の高燥と大層たるだけ壯麗に觀られ公園を擧げて庭園たらしむる趣向として直政公栽植の老松は配合殊に可なり該建物の桁行十五間三分梁間七間六分玄関二階桁行三間五分梁間四間五分として用材は地方よ於て生育せし松杉を主とし階段は檜を以て造り之れに漆を塗り小室多きも其必要あれば襖戸を撤去して五室を一室とからしむるを得べしと今其設計を記さん。間敷は六尺三寸を以て壹間と定め其寸法に依りて廣狹を決したるものにて貴賓室六坪二合五勺、中五坪、小三坪七合五勺にして此外八室あり階下は九室に分たれたり本日より一般に縦覧を許す由



興雲閣 (明治 40 年頃撮影) 松江市蔵